

型染

日本の美

2022年
6月15日[水]→8月4日[木]開館時間/10:00→16:30
6月17日(金)、7月8日(金)は19:00まで延長、入館は閉館の30分前まで
休館日/日曜日・祝日・6月23日(木)
入館料/一般 500円、大高生 300円、小中生 200円
障がい者との付き添い料 1人 300円
ギャラリートーク/風呂は未定です。
ホームページをご確認ください。※当館には入館をお控めいただけます。
※状況により手洗いを実施される場合があります。
※館の整理はホームページをご確認ください。

花

型染
日本の美

実用の美 …【江戸時代】

型染の衣服は、江戸時代中期頃まで主に武家に用いられていきましたが、その後は町人も広まり、江戸時代後期には木綿地に中形で文様を表した浴衣が庶民の夏の衣服として広く用いられました。量産に向く型染は、日常着の文様を染めるのに多用され、幅広い人々に愛用されました。



着物（部分） 桐箪 江戸時代後期



着物（部分） 小紋 江戸時代後期

第二章

精緻を極める…【明治時代】

明治時代の型染は、さらなる技術の向上を目指して、より精緻なものへと進歩していきました。複数の型を寸分違わず合わせて複雑な文様を染めたり、刺繡などと組み合わせることで表現の幅を広げていくなど、様々な試みが行われました。



下着 小紋 明治時代



着物（部分） 中單 明治時代

第三章

華やかなる大衆呉服…【大正・昭和初期】

化学染料を用いた型友禅による染染は、それまでの防染を基本とする型染の概念を一変させる画期的な新技法でした。それまでは、色鮮やかな友禅染めの着物を着用できるのは富裕層に限られていましたが、染染により大量生産が可能となり、女性たちの着物は一気に華やいだものになりました。



着物 友禅染 昭和時代初期



着物（部分） 友禅染 大正時代

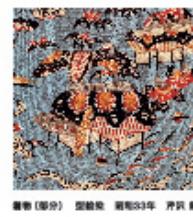
第四章

伝統の継承と新しい表現…【現代】

戦前まで人々の衣生活を支えていた手工業としての型染は減少していきましたが、戦後の型染は、工芸作品として新たな展開を見せていきます。型染作家は、伝統技術と自身の豊かな創造力を融合させ、オリジナルの型染作品を発表しています。



着物 木暮露・石原 美術33年 鮎川 対三子



着物（部分） 型染染 初代 井沢 介介

文化学園服飾博物館
BUNKA GAKUEN COSTUME MUSEUM

〒151-8529 東京都渋谷区代々木3-22-7 新宿文化クリエイティブ
TEL:03-3299-2387 JR・直王駅・小田急鶴鳴駅(南口)より徒歩7分
都営地下鉄新宿線・大江戸線・東山線新宿駅(西口)より徒歩9分
地下鉄丸ノ内線・千代田線・有楽町線・銀座線新宿駅(東口)より徒歩10分

学校法人文化学園

文化学園大学／文化ファッション学院大学／文化服装学院
文化外語専門学校／文化出版局／文化学園動物博物館

文化学園服飾博物館オリジナル手ぬぐいを作りました。
お届けに貢献する赤ん坊の誕生日の漢字 72 字を伝統の技術で染めました。
限定発売!

